

令和7年度 第6回創徳中学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和8年2月13日（金）17：00～18：00

2 場 所 会議室

3 あいさつ（学校長、委員長）

（1）委員長より

- ・1年間、学校として課題を掲げて取り組んできた。それに対する評価をしていきたい。

（2）学校長より

- ・4月に提示していただいた学校経営方針に従い1年間取り組んできた。その取組の成果と課題をまとめた。このあと各担当から説明させていただくので、忌憚のないご意見をお願いしたい。そのご意見を来年度に活かしていきたい。

4 教育委員会より 部活動地域移行について

ア 教育委員会事務局教育指導課 井上様よりご説明

- ・この1年間の進捗状況とこの先の見通しについて説明させていただく。
- ・休日の部活動を学校で実施せず、地域に移行していくとすることを決定し、それが令和8年10月からということになっている。いよいよ残り8か月余りで移行していくという時期になってきた。
- ・今年度取り組んでいるモデル事業は、今年度が最終年度ということで、できるだけ多くの種目で実施したいと考え、10種目（昨年度は4種目）で実施している。
- ・地域移行した際には、学校以外のところで中学生の指導を担っていただくということで、資料にある団体にお世話になり、11月から2月まで、月1回、合計4回の実験的な取組をしてきた。最終回は先日の2月7日（土）に終了した。
- ・大きな事故やトラブルなく活動を終えた。
- ・今年度指導に携わった団体、事業を実施した種目については、10月以降も継続して中学生の指導にあたってもらえる方向で進めていきたい。

- ・これから10月までの間に取り組むこととして、10月以降、休日の部活動がなくなると、これまで部活動に使用していた施設が空いてくる。そこを有効活用して、中学生の活動の場を確保していきたい。
- ・4月をめぐりに、広報や教育委員会のHP等で、場所を提供するので中学生を指導してくれる団体はないかと募集をかけ、申し出のあった団体に中学校の施設を使用してもらい、中学生を指導してもらおうと考えている。どれくらいの団体から応募があるかわからないが、応募のあった団体を教育委員会で希望する施設に割り振り、その学校で活動してもらおう。

#### イ 協議内容（○：委員の発言 ●：回答等）

○参加費の負担のイメージはどうなっているか。

●生徒が自転車で行ける範囲で活動があれば自転車で行ってもらおう。遠い活動場所での活動を希望された場合は、保護者が送迎することになる。また、保護者が負担するものとしては、保険がある。中学校の部活動は中学校の部活動の保険に加入してもらっている。休日の活動は社会体育となるため、新たな保険に加入してもらわなければならないので、スポーツ安全保険の費用が800円ほどかかる。

○市営の施設等の使用量もやはりかかってくるのか。

●例えばテニスの場合、学校のテニスコートを使用して活動してもらえれば利用料はかからない。活動する団体がAGFのテニスコートを借りて活動するとなった場合は、その利用料は活動する家庭に負担してもらおうことになる。

## 5 協議事項

### (1) 学校評価について

協議内容（・：担当より説明 ○：委員の発言 ●：回答等）

#### ①学力向上×ICTについて

- ・今年度は「研修推進グループ」「学力向上グループ」「調査分析グループ」の3つのグループで研修を進めた。
- ・市内では「生徒が見通しをもって、さまざまな課題に自ら選択し、ゴールや目標を設定して取り組んでいく」という活動を行っているところが多くあり、本校もそういった方向で授業改善に重点を置いて研修に取り組んだ。
- ・授業の方法論を他校の実践や校内の実践を通して多く収集することができ

た。一方で、生徒にどんな力を付けさせたいか、本校の生徒にどんな力が  
必要なかを十分にとらえることができなかった。今後は本校の生徒に実  
態に即した授業改善、学級づくり、生徒・保護者・地域とのつながりを重  
視して研修を進めていく必要がある。

- ・本校の研修主題が「一人一人の学びを保障する ～生徒主体の授業を通し  
て～」となっていることから、そのためのツールとしてICTの活用を進め  
てきた。Google スプレッドシートなど、他の生徒の作品や考えを参考にでき  
るツールを使って主体的で協働的な学びを促せるようにしてきた。ま  
た、ICT 支援員にICTの効果的な使い方を聞いて、授業や校務に生かして  
いる。
- ・多くの教員がGoogle ドキュメントやスプレッドシートなどを有効活用し主  
体的で協働的な学びをある程度実現できていた。課題としては、AIの利用  
が広がってきているので、生徒にどう向き合わせていくかということが出  
てきた。
- 「補充学習は、各学年の実情に応じて柔軟に設定することができた。」とあ  
るが、具体的にどんなことをしたのか。
- 補充学習は主に5教科（国数社英理）を中心にわからないところを先生に  
質問するという形をとっているが、学年によっては自習スペースを利用し  
たいという生徒の声が多かったので、自習用の教室を複数設けたり、補充  
学習を複数回行うなど、生徒の実態に応じて必要なところに力を注いでい  
た。
- 校内プチ公開授業について、「研修部として見通しをもって取り組めなかつ  
た」とはどういうことか。
- 例年、各教科に実施時期を委ねて行っていたが、例えば「1学期中に指定  
された人が必ず1回公開する」というようなノルマがある方が良かった。
- 調査分析グループについて、「次年度も結果分析を行いたい」とあるが、分  
析した結果、仲間づくりに課題があるということがわかったので次年度ど  
うするというのがあるべき姿ではないのか。分析するだけでは意味がない  
のではないか。
- 分析結果は次に生かしていかなければいけない。本校の強みと弱みをどう  
生かしているかについては、生徒アンケートの結果を学年集会で担当する

教員が生徒に伝えている。個々人へのフィードバックはもっと行わなければいけないと考えている。

○ICTの活用について、「業務改善につなげることができた。」とあるが、令和6年度の成果と課題で「好事例を水平展開することについて課題がある」としていたことから、改善につなげることができたのは評価したい。

## ②不登校対策について

- ・週に1回、教育相談部会を実施し、不登校生徒や気になる生徒の情報共有や支援方法の検討を実施した。部会には市教委不登校対策担当者やSSW、SCが出席することもあり、助言をもとに今後の手立てを検討することができた。
- ・週に1回、通級指導担当教員がSSTに関する指導を行うことで、生徒のスキル向上を図った。サポート教室において学校のきまりを守らず他の生徒の迷惑となる行為をしてしまった生徒に対しては、学年と連携し、保護者との話し合いや指導を行った。
- ・こまめな家庭連絡や家庭訪問等により生徒や保護者とつながることができているが、学校から継続的な働きかけを行っていても不登校状態が変わらない場合は、SSWやSCなどを活用し、多角的なアプローチを実施している。
- ・家庭訪問や電話連絡等は勤務時間外の対応になることが大半で、教員の負担は大きい。
- ・校区の各小学校と情報共有・支援方法の交流をしているが、小学校から不登校が継続している生徒は、改善に向けた新たな手立ての検討が困難な場合が多い。

○成果指標の「クラスでは、安心して学ぶことができる」と答えた生徒が、昨年度は91.6%だったのに、今年度は86.4%。これだけ取り組んだのに、なぜ5%も下がったのか。

- 一概にこれと言えないものはないが、フリースクールや自宅学習など学びが多様化しており、登校に対する家庭の意識がこれまでとは変わってきているところもあるのではないかと。

○生徒に応じたきめ細やかな対応は非常に大事だが、家庭訪問や家庭連絡は教員の負担が大きいということである。このことについて教育委員会から

コメントはあるか。

- 家庭訪問や電話連絡はチームで対応すると、特定の教員ばかりに負担がかからずに済むのではないか。他の学校でそういった取組をしているのを聞いたことがある。
- 課題はチームで共有するので誰が対応してもいいのだが、現実問題として生徒と教師の人間関係があるので、情報は聞いていてもほかの教員が対応するとなかなかうまくいかないこともあることは頭に入れておかないと、チームでやるからうまくいくというものでもないと思う。
- 生徒本人・保護者との人間関係ができているのであれば、その先生が継続的に一人の生徒を見ていった方が良いのではないのか。少しオーバーワークになってしまうかもしれないが、その分、他の仕事を先生が助けるという方法でやっていかないと不登校はなかなか減っていかない。

### ③地域連携について

- ・学校だよりは昨年度と同程度発行し、学校の様子や校長の考えを発信することができた。
- ・学校ホームページはほとんど更新できなかった。うまく活用する仕組みを構築していかなければならない。一方で、学年通信等を紙媒体で配布するだけでなく、tetoruで配信し、学校の情報を発信することができた。
- ・近隣校との連携や卒業生による講話等は今年度も実施している。
- ・学校運営協議会の委員の皆様は2回、授業や校内の様子を見ていただいた。それらを踏まえていただいた意見を教員間で共有することで学校経営の改善につなげることができた。
- ホームページをほとんど見たことがなかった。もし更新されたのであれば、tetoruで「更新したので確認してほしい」など一言あれば良い。
- 「学校は、通信、ホームページ、メール配信などで、情報を家庭に積極的に発信している」と答えた保護者が92.9%とあるが、昨年度は97.0%であるから、もう少し努力が必要かと思う。
- 学校運営協議会で授業を参観したが、来年度もこういうやり方で良い。
- 成果指標にしているアンケートは、全生徒・全生徒が回答しているわけではないはずだが、どれくらいの生徒・保護者が回答した中での数値なのか。

●アンケート結果は項目ごとの割合を市教委から提供されるが、回答総数は提供されないので学校では把握できない。来年度は問い合わせをして、回答状況の把握にも努めたい。その状況は指標に入れたい。

○今年度は tetoru を利用したが、令和8年度は変わるのか。

●市教委から何も変更の連絡がないので、来年度も tetoru を利用する予定である。

#### ④非認知能力育成について

- ・1年生は中学校で非認知能力を扱うのが初めてのため、1学期末のアンケートを実施する前に、非認知能力がどんなものかについて1時間の学習を行った。
- ・アンケートは各学期の終わりに実施している。2学期末のアンケートでは、1学期の質問項目に、どの力が特に向上したかや、どんな学校教育活動が非認知能力の向上に効果があったかを問う項目を追加し、生徒の実態を把握するよう努めた。その結果、文化祭・合唱コンクールと部活動が非認知能力の向上に効果があったと回答した生徒の割合が高かった。
- ・すべての質問項目で1学期よりも数値は上昇していたが、自制心が他の3つの力よりも数値が低かった(69.7%)。そのなかでも「誘惑に負けない」「先のことを考えて、計画的に行動する」が特に低かったので、この部分のテコ入れが必要だと感じている。

○非認知能力について、こういう指導をしたら数値が上がるという方法があるのか。今、社会がそれを求めているのだというのであれば、それは公立の中学校がやるべきではないと思う。そういった研究は研究施設や附属学校でやって、効果があると分かったものを利用すればいい。低い数値を上げるのは非常に大変で、先生たちのオーバーワークになっていないか。不登校の数値も、ある意味、1年生の時から改善できたのかだけで良いと思う。先生たちは努力しているので、絶対に効果は上がっていると思う。

●非認知能力を上げるために新しく何かをすることではない。例えば、合唱コンクールに向けて練習をする中で、仲間と協力する力や見通しを持つ力、粘り強さが身に付いたり、自分が努力したことを仲間に認めてもらえたりする機会が得られた。そういったことについてのフィードバックを学年通信や学年集会で行い、生徒に自覚させていた。

#### ⑤特別支援教育について

- ・今年度は週1回の部会を定着させ、さまざまな立場の教職員が部会に参加した。これにより、生徒の情報を多角的な視点で共有し、より実態に即した支援策を検討することができた。
- ・校内だけで対応が難しいケースについては、SC・SSWと密に連携した。専門的な助言をもらうだけでなく、適切な福祉サービスにつなぐ調整をしてもらうことで、学校と家庭が連携して解決に向かう土台をつくることができた。
- ・各担任が学期ごとに支援ファイルを見直し、学年全体で目を通す機会を設けることで、組織的な指導計画の立案につなげている。
- ・教職員のスキルアップとしてWISC知能検査の活用に関する研修を計画しているほか、市内の研修会において本校の不登校支援の実践を発表した。外部の専門家からの意見を取り入れて、支援の質を高める良い機会となった。
- ・医療機関とは相互に情報を共有し、医学的な見立てを指導に生かす体制ができています。児童相談所や警察とも緊急時に即座に連携できるように、引き続き関係機関との協力を進めていく。
- ・「困ったことがあれば、学校の先生に相談できる」と答えた生徒の割合が81.2%となり、減少傾向となってしまった。結果を真摯に受け止め、日頃の信頼関係づくりや細やかな情報共有をより一層強化する必要がある。
- ・特定の課題を抱える生徒にとっては、学校の教員が唯一の相談相手であり心の支えとなっている現実もある。数字の増減だけでなく、生徒一人ひとりが安心して過ごせる居場所としての学校を目指し、引き続き教職員全体で意識を高めて取り組んでいく。

#### ⑥生徒指導について

- ・様々な家庭環境にある生徒や特性を持った生徒がいるので、一律の指導は大事だが、個に応じた生徒対応・指導ができた。
- ・室長会・生徒会役員が中心となって、5分前入室・2分前着席の徹底やルールの意義の周知を図ることができた。来年度の生徒会役員ともルールの確認や疑問の解消・解決に向けた話し合いを行っていく。
- ・今年度は商業施設からの苦情がなかった。また、地区補導の前に小学校の先生と学校での取組や気になる生徒の共有などをし、小中の接続が円滑に行い、当該生

徒がうまく学校生活を送れるようにしている。

・2年生のアンケート結果があまり良くなかった。その結果を受けて、自己肯定感が上がるような取組を実施している。具体的には、職場体験学習のレポート作成やポスターセッションを行うとともに、事後アンケートで発表した生徒の良いところを相互評価する活動を行った。また、マイプランニングノートに仲間の良いところを見つけて書かせる取組もしている。人権教育部会と連携し、来年度以降も子どもたちが安心できるように、他者の良いところを認められるように学校づくりをしていきたい。

○「自転車事故が数件起こった」とあるが、場所は具体的にどの辺りだったか。

●苦情は入り組んだ場所について頂戴することが多い。サイゼリヤの横から飯野神社に抜けていくところで飛び出しがあるという話があった。しかし、接触事故があったのは、新しくできたニトリの前、シャトレーゼの前のように道が細くない場所だった。

○実際に、かつやの横から中央道路を横断していく場面を見る。また、サイゼリヤの奥のクランクになっているところを歩いていく姿を見かけるが、あの道は通学路になっていないのではないか。

●家から早く大通りに出るようにという言い方しかしていない。あの道を通って大通りに出る生徒もいるかもしれない。

○以前、あそこは通学路ではないと相当な苦情をいただいたことがあった。あそこは朝の時間帯は一方通行になっている。最近あそこを通る姿を見るので、危ないなど思っていた。他に、焼き鳥三好の横断歩道のないところを横断していく生徒もいる。なかなか信号間の距離が近いので、そこに信号を立てるのは難しいらしいが、心配である。

●清和小学校の先生からもそういった場所の斜め横断が多いという苦情をいただいている。また職員間で周知し、生徒たちにも伝える。

○5分前入室・2分前着席について、前回の学校運営協議会の中でなぜこのルールができたのかきちんと周知すべきであるという話をしたものが、今回きちんと周知できたということは、学校運営協議会として役割を果たせたと感じている。

○校則について、これをこうしてほしいという意見は生徒からあったか。

●夏は暑くなっているのに制服にこだわらずに半袖・ハーフパンツで良いと柔軟に対応していたが、ウインドブレーカーの着用について、体調管理やインフルエンザの予防等のために、限られた時間ではあるが掃除の時間や校舎の外に行くときに寒いのでウインドブレーカーを着用したいという声があったので、認めることにした。

○どうしても数値化して見せるところも多いと思うが、学校は数値では表せないところもとても多いと思っている。創徳中の先生はいろいろと関わっていただき、落ち着いた環境で過ごせているという声を聞く。数値や文章に表れないところでとても頑張っていると思っている。その都度生徒の状況は変わるが、小中連携を大事にし、引き続き良い形で取組を進めてほしい。先生方がオーバーワークになりながら頑張っていることはよくわかっているため、引き続き生徒と関わっていただけるとありがたい。

#### 学校長より

・今年度は授業を見ていただくことで、実際のこどもたちの姿を見ていただいたり声を聞いていただけた。学校の掲示の様子も見ていただく時間もあった。紙面ではわからない肌で感じていただける部分があったのではないかと。その中で、学校としてやっていくといったことに対して様々なご意見をいただけた。私たちにはない視点や気付きを得られたので、先ほどいただいたご意見を踏まえて、来年度に生かしていきたい。これは教育なので、「これでよし」というものはない。先生方は「さらに」という思いで取り組んでいる。先生方が健全な状態でバランスよく学校運営ができたらと考えているので、今後もお力添えをいただきたい。

#### 6 教育委員会より

- ・学校関係者評価にあたり、担当の教員も出席し、詳しく説明してくれたのでよくわかった。また、資料も事前配布し、内容を把握してもらったうえでこの会議に出席してもらえた。非常に丁寧に学校評価について取り扱ってもらったのが良かった。
- ・委員の方については、今日出た意見をもとにして、「こういうところについては言い足りなかった」ということは用紙に書いて、締切までに提出してもらいたい。
- ・前回の学校評価で言われたことに学校が取り組んだという報告があった。また今回言っていただいたことについては学校が来年度の取組に生かしていくという話もあったので、多方面から意見を言っていただくと、創徳中の来年度の学校経営の改善に生かされるので、忌憚のない意見をよろしく願います。

## 7 その他

- ・学校関係者評価は記入用紙に書いて学校に提出するか、用紙についている QR コードから回答する。締切は2月26日（木）。
- ・令和8年度第1回学校運営協議会は、5月15日（金）開始時刻は、19時とする。事前に学校経営方針を送付する。
- ・民生委員からの委員は交代になる。新しい委員は市民センターに連絡し、確認する。

（学校運営協議会は拡大を含めて年6回まで。5回の学校は1校だけ）